

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677400121
法人名	(有)セントロメディコ
事業所名	グループホーム 春華苑
訪問調査日	平成21年2月28日
評価確定日	平成21年4月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4677400121		
法人名	(有)セントロメディコ		
事業所名	グループホーム 春華苑		
所在地	郵便番号 893-1207 鹿児島県肝属郡肝付町新富563-1 (電話) 0994-65-7299		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.81人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団春陽会中央病院 真愛会上園医院 西の原歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜並木の小道を数メートル入った所に当ホームおよび同系列グループホームがある。3グループホームが同敷地内にあって利用者も職員も顔なじみの関係ができていて穏やかに時を過ごしている。職員の方々は介護経験に応じた学習に取り組み、スキルアップに努め、喜びをもって働いている。職員のチームワークもよく、利用者同士も助け合いながら仲良く生活している。総合病院も近くにある医療、福祉の連携も密で、利用者、職員にとって安心安全が確保されたホーム運営がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点を職員間で改善に向けて話し合い、運営推進会議でも報告されている。地域密着型理念ができています。地域との交流もホーム側から積極的に働きかけて深まりつつある。プライバシーの確保もマニュアルを作成し勉強している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自主性を重んじ、職員全員に自己評価表を配布し、記入してもらい、ユニット毎に話し合いをしながらまとめている。利用者の想いを大切にし日常生活が明るく過ごせるようなケアに活かしている。外部評価の結果を踏まえて改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に開催され、職員は交替で参加している。出された意見に対しては日々の介護に活かし、検討事項についてはその経過を話し合い、より良いサービスにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会や家族会の際に職員は家族と話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気作りができています。意見や要望はミーティングに図り、速やかに対応できるよう取り組んでいる。また、改善や結果は報告し、不安解消に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の行事(カラオケ大会、十五夜、やぶさめ、駅伝の応援、掃除など)に参加している。中学校の職場体験学習、ボランティアも受け入れている。苑内の行事にも地域の人の参加を呼びかけ、餅つき、クリスマス会に参加してもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを理念として掲げ、現状に合った事業所独自の理念を作り上げている。理念は玄関正面に大きく分かり易い文字で標示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、理念の唱和を行い、実践に向けて日々取り組んでいる。毎週木曜日、系列グループホーム合同で職員2名がスピーチを行い、意識高揚を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事(カラオケ大会、十五夜、やぶさめ、駅伝の応援、掃除)に参加している。中学校の職場体験学習やボランティア活動を受け入れている。ホームでの行事参加への案内を実施し地域の方に立ち寄ってもらうよう努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自主性を重んじ、各職員が自己評価に取り組んでいる。課題克服に対して難しいという意見もあるが気づき、学びあえることを実感している。外部評価の結果を踏まえて改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている。職員は交代で参加している。出された意見に対しては日々の介護に活かし、検討事項についてはその経過を話し合い、改善に向けた取り組みを積み上げて行くようにしている。地域の協力を得た利用者の生活支援サービスにつながる会議のあり方をめざしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに役場の福祉課介護保険係に毎回出席をもらって担当者に運営、サービスについて相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月、1回発行している「苑だより」の中に個人状況の記入欄を設け、日々の暮らし振りや身体状況を報告している。来訪時や電話でこまめに報告している。金銭管理は担当者が一人ひとりの出納帳に記入し、定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会の際に職員は家族と話す機会を多く作り、意見を出しやすい雰囲気作りができています。意見や要望はミーティングの中で速やかに対応できるよう取り組み、改善や結果は報告している。苦情なども窓口を設け、いつでも対応できる体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列グループホーム同士で協力体制があり、外来リハビリなどに同行したり、職員、利用者は日頃より顔なじみの関係ができています。基本的には各棟、職員は固定化している。時には職員の配置がえもあるが必要最小限とし、利用者のダメージとならないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会をしている。外部の研修にも多くのスタッフが参加できるよう努めている。ミーティング時に研修報告を行い、共有している。また、個人の研修計画を掲げ、資格取得めざし頑張る体制もできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの見学や情報交換をしている。また、協議会に参加し、事例の報告会、勉強会をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅訪問したり、ホーム見学や茶話会に参加してもらい、雰囲気になじんでもらっている。利用者、家族と相談しながらサービスを開始し入居後も自宅訪問したりして信頼関係を築き、不安軽減に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から多くのことを学びながら共同生活している。利用者個々の興味を示すもの(そばうち、団子づくり、餅つき、農作業、草むしりなど)を日々のケアの中から引き出し、本人の得意分野を把握し、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本年度の目標に「利用者の生活暦、趣味を引き出すことに努め、職員が利用者の想いをかなえてあげる。」を掲げ、日々の関わりの中での声かけ、会話の中から思いや意向の把握に努め、不安や喜びを分かち合える関係を大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態や生活暦、希望を把握し、家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見をくみ、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、また、利用者の状態に応じ現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの訪問看護ステーションと医療連携契約を結んで医療連携体制加算の指定を受けている。ドクターの往診、系列の病院受診や買い物、理美容院、温泉施設やリラクゼーションなどの外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。病院受診は原則家族にお願いしているが、法人内病院受診は職員が付き添っている。代行時は必ず受診内容を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針について説明している。定期的な検査があり、重度化、終末期への方針は主治医より家族、本人に説明し、医療機関、訪問看護ステーションとの連携を密に対応できるようにしている。職員も計画的に勉強会をもって全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを作成し、活用している。個人情報保護法の勉強会も行い、プライバシーを損ねない対応を心がけている。思いやりをもった言葉かけに配慮している。個人情報に関する同意書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが利用者の生活スタイル(起床、食事、散歩、レクリエーションなど)を把握しており、利用者本意の暮らしができるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を重視し、調理、盛付け、配膳、下膳などできることをしてもらっている。食事形態(一口大、きざみ、ミキサー食)を工夫し、職員もサポートしながら一緒に食事を取っている。利用者間で助け合い、楽しく食事ができている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として一日おきの入浴を実施している。希望に応じ、常時対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は役割(カレンダーめくり、カーテンの開け閉め、花や野菜の水かけ、箱作り)をもって生活している。家族の面会時一緒に外出したり、カラオケで歌ったり、レクリエーションに昔の遊びを取り入れ点数を競い合ったりして楽しんでいる。2ヵ月に1回のドライブ(家族の参加もあり)に外食を含め、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に食材の買出しや散歩、温泉施設利用を楽しんでいる。天気の良い日は外にテーブルをセッティングし花や野菜を見ながらお茶を楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずタッチセンサーで他はブザーやモニターで出入りを確認している。一人ひとりの動きを把握し、職員同士で声を掛け合いながら見守りを行っている。徘徊傾向の利用者の安全対策としては法人の協力をもらっている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルも作成し、定期的に火災訓練を行っている。雨季には地域の参加を呼びかけている。AEDの訓練も行っている。災害時に向けて水、食料の備蓄も業者と契約している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録している。水分量は特に気をつけなければならない人のみ記録している。体重は毎月1回測定している。法人内の栄養士に献立を作成してもらい利用者の好みも取り入れながら栄養バランスに配慮している。夜間はいつでも飲めるように各居室にお茶を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓もあり、明るい共有空間である。夏はよしずをかけたり、こまめに温度チェックを行い居心地よい空間づくりとなるよう努めてしている。ホールはソファもあり、温かみのある照明を利用し、利用者はゆっくり雑誌や新聞、絵本など自由に見れる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室があり、ベット、整理タンス、テレビ以外は寝具をはじめ本人の使い慣れたものをもちこみ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		